

の平和のために民主同士助け合っている。この助け合いのことを「シャラマダーナ」という。このシャラマダーナの大きな特徴は活動のほとんどがボランティアであるということである。またシャラマダーナを通して様々な地方から集まった人々が談話して友情や宗教や人種を超えた関係を築くことができる。このシステムがスリランカに4つも存在している宗教間での平和性を生み出している。

写真は、実際にシャラマダーナに参加した時のものである。参加人数は幼稚園の子供たちを除いて約20人ほどであった。作業内容は幼稚園の壁全体をピンクのペンキで塗り、窓の淵を青いペンキで塗るというものだった。幼稚園は広くないので、大人5～6人いれば、終わる作業であったが、シャラマダーナは集まったみんなで1つのことをすることを大切にしているので一人ずつしっかり交代して作業を進めていた。作業終了後には交流として幼稚園児たちに日本の歌を教えました。

サルボダヤの活動を通して「Think Globally, Act



Locally」を身近に感じる事ができた。この考え方は今後の国際社会で最も大切なことだと思うのでこの体験を生かして将来はグローバル社会に貢献できる人物になりたいと思った。

シリーズ:学生ボランティア派遣体験記8

自分自身の成長に

宇都宮大学教育学研究科カリキュラム開発専攻2年 赤羽 かずみ

私は、大学院1年のときから毎週1回、小山市の外国人児童生徒適応指導教室「かけはし」で日本語指導の補助に当たってきました。最初の頃は、どのようにして子どもたちとコミュニケーションをとったらよいのか、悩んだ時期もありました。しかし、子どもたちとの距離感を縮めることができるのは、言葉が話せるか話せないかではなく、いかに子どもたちに真っ正面からぶつかっていくかということだと気付かされました。

現在は、ペルーやブラジルから来た児童の国語や算数(数字の書き方)の学習支援に当たっています。子どもたちと一緒に学んでいて、「教えることは同時に学ぶこと」なのだと、改めて実感します。私の将来の夢は、学校の先生になることです。実際に教師になった際には、ここで学んだことを生かしていきたいと思っています。